

シリーズ **土地改良** のあしあと 桃園西部土地改良区 (津市)



整備前



整備後

本地区は、三重県の中央部に位置し、東西に細長く雲出川左岸に広がる平坦地域で、東に伊勢湾、西は丘陵地帯となっており、内海的な気候で、雲出川に沿って展開する水稲と裏作野菜(キャベツ)を主流とする地域です。

牧・川方・新家の一部集落を対象地区とし、土地利用型農業を核とした担い手農家の区域です。

本事業地域は、農地は不整形、農道は幅員不足、水路は用排水兼用で営農に支障をきたしているため、農業生産性向上及び農用地の集団化、担い手の育成を目指して、平成20年7月に土地改良区(受益面積35ha、組合員数82名)を設立し、県営経営体育成基盤整備事業(現在は、高度水利機能確保基盤整備事業)に着手し、平成28年1月に換地処分が完了しました。

耕地区画は3,000～10,000m²区画形状で、用排水整備(パイプライン化)により水利用の効率化や農用地の汎用化及び畑利用の拡大、農道網の整備により大型機械の搬入が容易となり、経営規模の拡大や合理化が進められ、労働生産性の向上、維持管理労力も節減され、地域農業の向上が図られました。

また、平成24年度には自治会が中心となり、農用地・施設の保全管理や将来を担う子供たちに学ぶ機会を提供しようと、農地・水・環境保全向上対策(現在は、多面的機能支払)に取り組む活動組織として「桃園西部デンジ草保存会」を立ち上げ、施設の点検・補修等に加え、地元子供会との地域で生息する希少種「デンジ草」の観察会や田植え・稲刈り等の体験学習を通じた啓発活動を実施するなど農業の大切さを伝える活動等を行い、地域農業の活性化に寄与しています。



デンジ草(田字草)



田植え体験



「デンジ草」観察会